２０２５年回顧〈国内篇〉　おすすめリスト

森下一仁さん：BEST ５

	①伊藤典夫 『伊藤典夫評論集成』（国書刊行会）
	②犬怪寅日子『羊式型人間模擬機』（早川書房）
	③酉島伝法『無常商店街』（東京創元社）
	④笹原千波『風になるにはまだ』（東京創元社）
	⑤カリベユウキ『マイ・ゴーストリー・フレンド』（早川書房）

森下一仁さんよりメッセージ

浸透と拡散が行きつき、どこで何が起こっても不思議でない状況になっているＳＦですが、かつて、日本に紹介され始めた頃には、全体的にひとつの運動体と捉えることができ、ファンや作家はその流れの中にひとつひとつ作品を位置づけようとしたものです。
伊藤典夫さんは、そのような運動体としてのＳＦを鋭敏に感じとり、いち早く日本の読者に伝え続けてきました。

①はその足跡を網羅した驚異的な本。
予備校生の頃からすでに伊藤さんの頭の中にはＳＦの総体が俯瞰され、新しい作品を腑分けしてきたことがわかります。凄いとしかいいようがありません。
個人的にも、日本のＳＦ界にとっても極めて貴重な一冊といえるでしょう。

②、④、⑤は新人賞に選ばれた人たちの作品。

②は少女型のアンドロイドが語る奇妙な一族の話で、登場人物たちのキャラクターが素晴らしいし、語り口にも惹きつけられました。長く記憶に残るユニークなファンタジー。

③は酉島さん独特の文体を適切な場所でぞんぶんに発揮して、異様な世界と、この現実をつなぐ論理を展開しています。「仏眼荘」というアパートが魅力的で、そこを主人公の翻訳家が訪れるところは、なんとなん夏目漱石の『草枕』を思い出したりしました。　異様で、こっけいで、気持ちいい世界。

④は、情報世界に転生した人と、現実世界に生きる人との感じ方、考え方を対比させ、生きることの実感をどう獲得するかを描く。繊細な文体がこの上なく魅力的で、数時間だけ現実世界に戻ることができたアパレルデザイナーが久しぶりに衣服の手触りを味わう描写が殊に見事。

⑤はやや大時代的な文体で語られる伝奇／怪奇ＳＦ。見境なくぶち込まれたアイデアと熱量の高い文章に圧倒されました。

この年はほかにも新人の作品に読み応えのあるものが並びました。
カスガ『コミケへの聖歌』（早川書房）、ゲンロンＳＦ新人賞と創元ＳＦ短編賞を受賞した天沢時生の初の作品集『すべての原付の光』（同）、ゲームライターでもある赤野工作の『遊戯と臨界　赤野工作ゲームＳＦ傑作選』（同）など。

他には、伴名練『百年文通』（早川書房）、小川哲『火星の女王』（同）、高野史緒『アンスピリチュアル』（同）、上田早夕里『成層圏の墓標』（光文社）、円城塔『去年、本能寺で』（新潮社）などが記憶に残っています。

岡野晋弥さん：BEST５	
	天沢時生『すべての原付の光』（早川書房）
	赤野工作『遊戯と臨界　赤野工作ゲームSF化作選』（創元日本SF叢書）
	灰谷魚『レモネードに彗星』（KADOKAWA）
	人間六度『烙印の名はヒト』（早川書房）
	関元聡『摂氏千度、五万気圧』（早川書房）

香月祥宏さん：BEST５（Before）	
	※別格　『伊藤典夫評論集成』
	赤野工作『遊戯と臨界　赤野工作ゲームSF化作選』（創元日本SF叢書）
	天沢時生『すべての原付の光』（早川書房）
	上田早夕里『成層圏の墓標』（光文社）
	円城塔『去年、本能寺で』（新潮社）
	酉島伝法『無常商店街』（創元日本SF叢書

香月祥宏さん：BEST５（after）	
	円城塔『去年、本能寺で』（新潮社）
	上田早夕里『成層圏の墓標』（光文社）
	森下一仁『エルギスキへの旅』（プターク書房）
	村田沙耶香『世界99』（集英社）
	市川憂人『もつれ星は最果ての夢を見る』（PHP研究所）

香月祥宏さん：これも入れたい、もうひとつのベスト	
	森下一仁『エルギスキへの旅』（プターク書房）
	人間六度『烙印の名はヒト』(早川書房)
	村田沙耶香『世界99』（集英社）
	灰谷魚『レモネードに彗星』（KADOKAWA）
	市川憂人『もつれ星は最果ての夢を見る』（PHP研究所）